

社会科学習指導案

日時 令和元年7月26日

場所 越谷市立〇〇小学校 3年〇組

児童 〇〇名（男子〇〇名、女子〇〇名）

授業者 B7E11045 深草あかね B7E11046 二上愛実 B7E11047 邊見和稔

B7E11049 間野貴鳳 B7E11050 宮坂実来

1. 単元名 「わたしたちの市の伝統文化」ー越谷だるまー

2. 単元目標と評価

(1) 目標

越谷市では、だるま職人が自然や社会的条件を生かしながら、伝統を守る努力をしている。このことに気づき、地域を盛り上げるために自分たちには具体的に何ができるのか考えることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・ 判断・表現	ウ 観察・資料活用 の技能・	エ 社会的事象につ いての知識・理解
○越谷だるまに関心をもち、それを支えている人々の工夫や努力を意欲的に調べようとしている。 ○越谷だるまを通じて、地域社会の一員として地域に協力していこうとする態度や、地域への誇りと愛情が見られる。	○越谷だるま作りにかかわる人々の働きによって、地域社会の特色が生み出されていることが分かる。 ○伝統文化が受け継がれてきた背景には、それに関わる人の工夫や努力があることを考えることができる。	○越谷だるま作りを調査・見学をしたり、資料を活用したりして、地域の様子や特色、そこに住む人々の生活の様子を調べることができる。 ○調べたことを自分なりに整理・工夫して、発表やノート作り、社会発信に生かすことができる。	○越谷だるまが自然や社会的な条件を生かした特色ある産業であることがわかる。 ○伝統や文化を保護・活用してきただるま職人の工夫や努力、苦労、願いがわかる。

3.単元について

(1) 教材観・指導の系統

本単元は、第3学年学習指導要領の「内容(5)イ地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」を受けて設定したものである。ここでは、地域の人々の願いを考える手掛かりとして、地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事を調べる対象とする必要がある。「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」を調べることは、古くから伝わる文化財や年中行事を取り上げ、地域の人々が大切に保存し継承するための取組などを具体的に調べることである。ここでは、地域の文化財の歴史を伝えるとともに、これらの保存に取り組んでいる人々の努力がみられることや、地域の生産活動の発展、人々の願いがみられることを取り上げ、地域の人々の願いや保存・継承するための工夫や努力を考えることができるようにすることが必要である。そこで越谷市の伝統文化としては以下のものが挙げられる。越谷だるま、越谷ひな人形、越谷甲冑、桐たんす、せんべい、お神楽である。今回は、子どもにとって親しみやすいもの、近隣の市には無いもの、実際に作業をしている姿を見学したりインタビューしたりできるものとして、越谷だるまを取り上げる。

今回扱う越谷だるまは、江戸時代に日光東照宮などへ往来していた職人が越谷宿やその近傍に住み着いたことによって根付いた。職人が越谷に住み着いた理由は奥州街道、日光街道などがようやく整備されかけた時代、他地域では雨風の災害に見舞われたが、越谷という地は、他地域と比較して比較的雨や風の影響が見られず、住みやすい土地であったからだといわれている。日光街道の宿場町であった越谷の繁華、そして住みやすい風土に魅かれ、住み着いた職人が、人形や干支物といった玩具を作り始めたのである。雨や湿気の少なかった越谷の気候は、張子のだるま作りに適していた。さらに越谷の農家が冬場の副業として、だるま作りに取り組んだことが越谷だるまを発展させたのである。

越谷におけるだるま作りの始まりについては、桜井村大字間九里に住む村会議員高橋大蔵氏が、昭和七年十二月七日、東京日日新聞の記者に今少し詳細に語っている。それによると、西暦一六一三年頃に間九里の「だる吉」なる男が作り始めただるまを高橋氏の五代前の八太郎氏が隠居仕事として引き継ぎ、周囲に広がっていく契機になったという。また、「人形師」と称する平万太郎という者が、人形作りのかたわらだるまを作っていたということも伝承として残っているという話であった。また越谷だるまは歴史上の人物と関連していることが判明した。越谷市越ヶ谷に御殿という小字の地名がある。これは慶長九年(1604)将軍徳川家康が、それまで増林字城ノ上(現 越谷市花田地区)に設けていたお茶屋御殿をこの地に移し「越ヶ谷御殿」と称したその名が今に残っているのである。この土地は、もと越ヶ谷の土豪会田出羽の陣屋内の敷地であり、軍事的にも荒川(現 元荒川)の流れを前にした要所であった。当時、越谷は鶴や鴨等が豊富に生息していた地帯であり、徳川実紀によると、家康はこの御殿にしばしば宿泊して鷹狩りを行っていた。とくに慶長十八年(1613)の九月から十二月にかけては、三度も続けて越ヶ谷御殿を訪れている。こ

のうち十一月二十日から二十七日までの泊狩の際には、越ヶ谷の近郊農民が代官の悪事を鷹狩に燃えていた家康に訴え出るということもあった。またこの間、家康は鶴を十七羽捕まえたご機嫌であった。やがて元和元年(1615)五月、大阪夏の陣で豊臣氏を滅ぼした家康は、戦後処理を終えると、岩槻を出て同年十一月十日に越ヶ谷へやってきた。そして、越ヶ谷で再び鷹狩をしようとしたが、越ヶ谷の狩り場は田に水が満ちていて出来なかった。このためこの地の代官が叱責されている。これは、瓦曾根溜井の造成により、広い地域の田場が水溜りになったことから起きたものとされる。鷹狩のためやってきた家康は激高した。家康もおさまり、落ち着いたところで越ヶ谷の町へと代官とともに出ていく。家康は江戸から始まったとされる三段びな、練りびなといった小さくて可愛い「越谷雛人形」や玩具などを見て回った。そんな中で越谷だるまに出会った。職人たちが描くだるまのひげなどといった繊細さには驚いたようだ。それが家康と越谷だるまの初対面であった。

越谷だるまは、江戸時代の初めには子どもの疱瘡や疫病の魔除けのまじないものとして求められたが、次第に縁起物として売られるようになり、とくに江戸市中では家内安全、商売繁盛、五穀豊穰、福招き等の“開運だるま”として好評だった。

昭和十七年には三十軒、同三十年には二十四軒、それから十二年後の昭和四十二年には二十軒となっている。その後も減少し続け、同五十七年には人手不足その他の事情から二軒が廃業して十軒、2012年現在にいたっては八軒となっている。

指導の系統

社会科は3年生になって初めて学ぶ教科である。1学期には学校の周りの様子や、市の様子について学習した。2学期になると、地域で働く人の生産や販売を通して、自分たちの生活と密接に結びついていることや生活を支えていることを学んだ。また生産や販売に関わる人々の工夫や努力について考えた。今回は今まで学んできた地域から人々を総括して、越谷市に受け継がれる伝統文化（越谷だるま）を通して、地域の人々が受け継いできた伝統文化を学ぶ。

(2) 児童の実態

(略)

(3) 指導観

本単元の第一段階では、越谷市とだるま作りの関係をつかませる。その際、ほかの町の郷土品を例として取り上げ、郷土品はどのような存在なのかつかませることによって、比較して考えやすくする。

第二段階では、越谷だるまの下調べを行い、基礎的な内容を把握させる。次に、職人へのインタビューや工場の見学を通して、職人の工夫や努力をつかませる。インタビューの

結果をまとめ、さらに盛んにするためにはどうすれば良いか考えさせる。

第三段階では、越谷だるま親善大使として、越谷だるまの良さを伝える具体的な方法を考えさせ、自分たちにできる方法（新聞やポスターなどの作成）を行う。さらに子どもたちの目を越谷市に向け、越谷に対する誇りと愛情がもてるようにしたい。その際、授業の最初と最後で、越谷市や越谷だるまに対する気持ちがどのように変化したか、ワークシートで確認する。

4.指導計画（11時間）

段階	時	学習活動・内容	教師の支援と評価（◇）
1	1	<p>○越谷市とだるま作りは深い関係があることに注目し、学習問題作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越谷市には「越谷だるま」の仕事をしている人がいる。 ・越谷だるまは越谷市の特産品である。 ・ワークシートに伝統文化への考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の町の郷土品と、その在り方や地域の盛り上げを見せ、伝統工芸に関心を持たせる。 ・越谷だるまの実物を見せ、存在を知ってもらう。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">越谷の伝統品、越谷だるまの秘密を知ろう！</div>			
2	2	<p>○越谷市の特色である越谷だるまについて、資料をもとに情報をまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本やパンフレット、ホームページをプリントアウトした資料を活用させる。 ・資料から調べることにより、人々の工夫や努力を主体的に研究することができるようにする。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・越谷だるまについて、疑問に思ったことを挙げる。 ・インタビューする内容を決める。 	<p>◇越谷だるまについて、資料を活用しながら調べている。（ワークシート・見学カード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に書いてあることなど不要な質問は予め除いておく。
	4	<p>○だるま製作所を見学し、インタビューを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べたいことについて、目的意識をもって質問させる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・だるま職人の話 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接インタビューしたり見学したりして、越谷だるま職人の工夫や努力に気付けるようにする。 <p>◇インタビューからわかったこ</p>

	6	○インタビューをまとめ、感想を發表し合う。	とをまとめている。(観察・ワークシート)
	7	○越谷だるまの職人の、工夫や努力、苦勞や願いについてまとめる。	◇越谷だるまを盛んにするために必要なことが職人の願いと一致することを考えることができる。
3	8	○越谷だるまの伝統を絶やさないために、自分たちに何ができるか考える。	◇だるま親善大使という立場を通して、伝統や文化に関わる人々の思いや願いを考えることができる。
	9	○ポスター作り	◇インタビューの結果から、越谷だるまの存続のためにどのような形で協力できるか考えることができる。
	10		・越谷市のよさを伝えるためのポスター作りを通して、社会に関わり、働きかける力を育てるようにする。
	11	○ワークシートを振り返る。 ・越谷だるま(伝統工芸)への思い ・越谷市への思い	・地域の伝統工芸と越谷市に対する1時間目時点の思いと比べさせ、その変化に気付かせる。

5.本時の指導(本時 8/11)

(1) 本時の目標

- ・地域の伝統文化の大切さを理解し、絶やさないために自分たちに出来る方法を考える。

(2) 評価規準

- ・越谷だるまを通して、地域社会の一員として地域に協力していこうとする態度が見られるか(ア 関心・意欲・態度)
- ・だるま職人の工夫や努力、苦勞、願いがわかったか(エ 知識・理解)
- ・だるま職人の工夫、願いを伝える方法を考えているか(イ 思考・判断・表現)

(3) 準備

- ・インタビューノート
- ・だるま調べに用いた資料
- ・ワークシート
- ・発表用短冊、マジックペン

(4) 展開

過程	教師の指導	児童の学習活動	☆指導上の留意点 ◇評価
導入 15分	<p>○前時までの振り返りをする。</p> <p>○職人の工夫・努力・願いを提示する。</p> <p>○苦労を共有し、そこから越谷だるまを救いたいという気持ちを持たせる。</p> <p>○発表された言葉から、めあてにつながる文言を見つけ、全体で共有する。</p> <p>○めあて提示</p>	<p>○前時の授業の内容を確認する。</p> <p>○四コマ漫画を使い、だるま職人の苦労を確認する。</p> <p>○四コマ目の吹き出しに入りたい言葉を考え、ワークシートに記入する。</p> <p>○考えたセリフを挙手で発表する。</p>	<p>☆工夫・努力の裏には職人さんたちの願いがあることをつかませる。</p> <p>☆工夫・努力・願いをふまえて、職人さんたちの苦労について考え、「私たちにできることはないか」という気持ちを持たせる。</p> <p>☆机間指導で「助ける」「手伝う」といった言葉を児童から引き出す。</p>
		<p>めあて：わたしたちが越谷だるまのためにできることを考えよう。</p>	<p>☆児童の発表の中の文言をめあてに盛り込む。</p>
展開 25分	<p>○「越谷だるまを絶やさないために何ができるか考えるか考えよう」</p> <p>○案を全体で共有する。</p>	<p>○出来ることについてペアで考え、ワークシートにメモする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTube でせん伝する ・いっぱい買う ・後けい者になる 	<p>☆なかなか案が出せない児童には、職人さんの立場に立って、自分たちに何をしてほしいと思うかを考えさせる。</p> <p>◇越谷だるまに興味を</p>

	<p>○出てきた案をそれぞれ「実現可能か」(職人さんの願いが叶うものか・自分たちにできることか)という視点から、具体性を深めていく。</p> <p>YouTube で宣伝する→教室でできることか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい買う→職人さんが望んでいることか ・後継者になる→職人さんの負担は軽減されるけど、根本的な解決につながるのか ・だるまづくり体験教室を開く→職人さんの負担が増えるのではないか ・ポスターを作る→特定の人しか見ないのではないか ・新しいだるまの案を考える→職人さんの負担が増えるのではないか <p>○各班の案を確認する。</p> <p>○各班、なぜその案を選んだのかを発表させる。</p> <p>○意見が分かれた班に、他の案を選ばなかった理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だるまづくり体験教室を開く ・ポスターを作る ・新しいだるまの案を考える <p>○班でどれが一番良い案かを考え、案を一つに絞る。</p> <p>○話し合いで出たそれぞれの案への意見は、ワークシートにメモをする。</p> <p>○一つに絞った案と理由を、用紙にまとめる。</p> <p>○用紙に書いたら、黒板に貼る。</p> <p>○それぞれの案のどこが実現不可能だったのかという点に触れながら、なぜその案を選んだのかを発表する。</p> <p>○意見が分かれた班は議論し、一つの案に絞る。</p>	<p>持ち、自分にできることを考えている。</p> <p>☆班の形にし、活動させる。</p> <p>◇積極的に話し合いに参加している。(関心・意欲・態度)</p> <p>☆なかなか話が進まない班には、職人さんの願いを確認させ、どの案なら叶えることかできるかを考えさせる。</p> <p>☆色々な視点から考えるよう助言する。</p> <p>☆わかりにくいものは補助説明行う。</p> <p>☆ポスターと新聞など似ているものは、無理に一つに絞らず尊重する。</p>
--	---	---	--

	を聞き、班同士で議論させる。 ○まとめ提示		◇越谷だるまのためにできることを考え、自分の意見を言える。(思考・判断・表現)
		まとめ：ポスターを作って越谷だるまのよさを伝えよう。	
まとめ 5分	○「次回の授業では、ポスターに書く内容を考えましょう」	・次回の内容を知り、学習の見当を立てる。	☆次回の授業への橋渡しをする。

(5) 板書計画、ワークシート

めあて わたしたちが越谷だるまを助けるためにできることを考えよう。

<u>工夫</u>	<u>努力</u>	<u>苦勞</u>	考えるポイント	<u>願い</u>
風水だるま ストラップ	手作業 伝統を守る	売れない 後継者不足	発表の仕方	多くの 人 に知って ほしい

1班	2班	3班	4班	5班	6班
ポスタ	教室	ポスタ	案	新聞	ポスタ
広め やす い	後継 者増 える	簡単 だから	私達 にで きる	実現 可能	工夫 しや すい

みんなのアイデア

- ・ Youtube でせん伝
- ・ ポスター
- ・ 体けん教室
- ・ 後けい者になる
- ・ 新しいだるま案
- ・ 新聞づくり

まとめ

ポスターを作って、越谷だるまのよさを広めよう。

7月26日

3年生社会科ワークシート

年 組 なまえ



ふきだしに入る言葉を考えよう

めあて

どんな方法があるかな？

まとめ